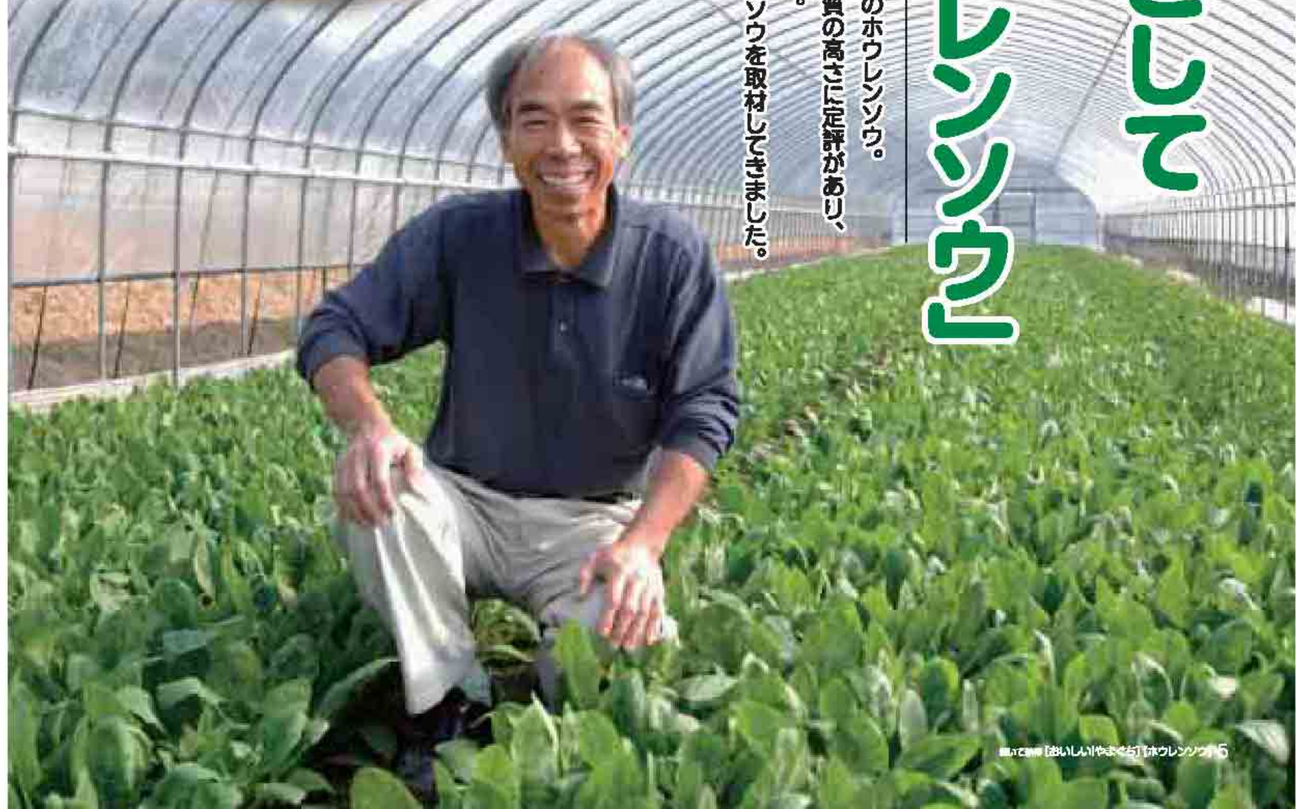
聞いて納得
おいしい!
やまぐち

美祢地域の特産として注目度アップ！緑黄色野菜「ホウレンソウ」

漫画のポパイでもおなじみ、身近な野菜のホウレンソウ。県内の主力産地である美祢地域では、品質の高さに定評があり、地域の特産として人気が高まっています。注目度が増している美祢地域のホウレンソウを取材してきました。

「まるごと」キャラクター
ほうれんくん



なぜ？なに？を農家さんに聞いたよ！

ホウレンソウ部会 役員 久保 真治さん（美祢市）

Q いつごろから栽培されるようになったのですか？

美祢地域では、1981年ごろに市内於福町で栽培が始まったのが最初です。その後徐々に美祢市内の各地域へ拡がり、JAの広域合併化に伴って1999年から秋芳町、2000年から美東町でも栽培されるようになりました。以前は地区ごとに部会を作っていたのですが、2003年9月、「JA山口美祢ホウレンソウ部会」を設立。部会員みんなの意識や栽培方法を統一して、より高品質なホウレンソウを作っていこうと、今も生懸命取り組んでいます。

Q なぜビニールハウスで栽培しているの？

ホウレンソウはもともと冬の作物で、暑すぎたり、雨が多かったりすると順調に育ちません。でも、ビニールハウスの中で栽培すれば、雨をよけたり、水分を調整したりできるので、年間を通じていつでも高品質なホウレンソウを作ることができるのです。

山々に囲まれた高冷地の美祢地域は、ホウレンソウ栽培に適しています。

季節や天気、気温によって異なりますが、種まきから収穫までの期間は夏は約30日、冬は約70～90日です。

Q 高品質な「ホウレンソウ」づくりのために行っていることは？

太陽の光があまり当たらないと葉がひょろ長く伸びてしまうため、太陽の光をしっかり当てるようにしています。また、水をまき過ぎると、茎が柔らかくなって折れやすくなるので、できるだけ水分を控えて、茎のがっしりしたものを作っています。さらに、美祢地域のホウレンソウの評判を高めるには、産地全体でいいものを作る努力が大事です。そのため先進地へ研修に行ったり、研究会を行ったりして、部会全体で栽培技術や品質向上に取り組んでいます。

①ほ場での掘り取り作業。②③収穫後の調製作業も、高品質なホウレンソウづくりのための大事な作業です。まず、大きさを揃え、傷んだ葉などを取り除いた後、根元を最適な長さに切り揃え、規定のグラム数に。④⑤葉を傷めないよう注意しながら出荷用の袋に詰めていきます。

Q 安心・安全な「ホウレンソウ」づくりのためにしていることは？

お客様に信頼される産地を目指し、部会全体でエコファーマーの認定取得に積極的に取り組んでいます。栽培するうえで必要な堆肥は、地域に整備したJA堆肥センターの良質な有機質堆肥を利用しています。また、ホウレンソウは、特に夏に病気や虫が多く防除が大変なのですが、できるだけ農薬を使わないようにするため、病気に対して抵抗性のある品種を導入したり、ビニールハウスを防虫ネットで囲うなどの対策をとっています。

※持続農業法に基づき環境にやさしい農業を実践する農業者のことで、県知事が認定します。